聖亡するみもあらんに之を傍聞して其不幸を歎じむは人情の常なれども其われを悲しむと同時に又窃に私語し何某の病死餓死に氣の毒なれども實は地方遠近の噂めに好き反介物ひなり彼の親類身寄にても先づ〳〵安心ならんなど云はる〳〵者は下等なり、病死の報知に接して會葬はしたれども不幸の沙汰は其日限りにして翌日より之を語る者もなきは中等の人物なり、死亡の新聞に驚くは勿論、病中より傍々の噂にて心配の折柄いよ〳〵不幸を聞て地方の人々先づ之を悲しみ次で之を惜しみ此人に去られては云々と立く者あり狼狽する者あり數年の久しき倚は人の口の端に殘りて消滅せざる者は上等なり左れば今人が偶然にも此世に生れ出でて其一身の行狀より居家處世の法に至るまでも上等にするか、中等にするか、將た下等に陥るか其上中下の差別は必ずしも學者先生に質問するを要せず近く地方人心の向背を觀察して之を知る可し社會は良師なりと云ふ即ち是等の事實なる可し

社説

海軍勢力の維持

海軍擴張の方針は前に述べたる如くにして二十五萬噸、三十萬噸、國力の許す限り只その艦數の一隻にても多からんことを望ひのみ第九議會にて議決したる第一期の擴張計畫は二十九年度に起り三十五年度に終る七年間に渉り金額九千四百九十餘萬圓にして既に確定したるものなり第二期の計畫は未定の案にして知るに由なけれども新聞紙上に散見したる所に據れば其計畫は三十年度に起り五十八年度に終る九個年の繼續事業にして金額凡そ九千二百六十餘萬圓なりと云へり今ふれに據て概算するときは所謂第一期第二期の擴張に要する經費は造船費を始めとして將校士官水兵の養成及び軍港要港の增設費等を總て是れ合せて十個年間に凡そ二億圓餘を支出するものと見て差支なかる可し即ち我海軍は今後十年を經て始めて二十萬噸に達するみとなれども斯る緩慢の擴張は四邊の形勢に於て果して許す可きや否や我輩の所見を以てすれば右十年間の期限を短縮して五年もしくは七年と爲す可きは勿論、事宜に據りては更らに第三期第四期の計畫に着手するの必要を認めざるを得ず又その二十萬噸の中には既に老朽に頽したる艦艇も少なからざれば更らに新造して之を補充せざる可らず殊に曉近造船造兵術の進歩は非常のものにして目下に於て整備利器と認められ居るものも數年の後には全く時代遅れの舊物と爲るの憂念なきに非ざれば一回片時も油斷するを得ず我輩が或る可く計畫の年期を短縮し更らに新計畫の着手を希望する所以なり而していよ〳〵軍艦を造りたる上にて維持費の一點は如何と云ふに從來の經驗に據れば金銀價の差異に由て時々の變動はある可しと雖も平時に於て軍艦一年度の經費は一噸に付き平均四十三四圓、乘組員は同じく一人に付き二百三四十圓の割合なりと云ふ今假りに二十萬噸の軍艦、三萬人の乘組員とすれば凡そ一年五百萬圓の年額（二十九年度の臨軍艦常費は一千六百三十萬圓餘なり）を要す可き筈なれども今後の新造軍艦は排水量の大なるもの少なからざるが故に從來の如く小艦のみより組成されたる艦隊とは大に趣を異にして噸數增加の割合には軍艦費の增加を見ず又乘組員の數も其割合には增さゞる可し即ち二十萬噸の軍艦を維持するの經費を一年一千五百萬圓とすれば更らに增して二十五萬噸と爲すも其維持費は右の割合にして幸も驚くに足らざるのみか軍艦の數、增加するに隨て所謂兼備艦の制を立て幾多の艦艇は常に豫備として港内に碇泊し平素は乘組の定員を大に減少しながら非常の命令に接するときは凡そ二十四時間以内に出發の準備を整ふるの仕組と爲し又改造もしくは修繕中、代る〳〵豫備艦に編入せらる可きものも少なからず勞々經費を節減して海軍の經濟に利するの方法なきに非ず維持費の點は深く掛念するに足らざるなり抑も軍艦製造に就ては强大有力のものを撰むみと素より必要なれども之と同時に成る可く多數の艦艇を備ふるの利益を忘る可らず從來海戰の實驗に徴すれば勝敗の決、常に艦數の多少に在るの事實は自から明白なるが如し如何となれば兩國相戰ふに際して其本艦隊が敵と衝突するや直に新鮮なる豫備艦を以て新艦隊を組織し得るもの〳〵勝利に歸するみと疑ひなければなり例へば日清の戰爭に我海軍は有らん限りの艦艇を擧て艦隊を組織し彼も亦北洋艦隊の全力を盡くして兩々相對峙したる其の結果は如何と云ふに黃海の一戰、殆んど彼の勢力を挫折せしめながら我が艦隊には非常の損傷もなくして全勝を收めたるは恰も天祐とも云ふ可きなれども其實はみたるものにみとわれ近來軍艦兼備の兵器はます〳〵重大鋭利を加へて如何なる裝甲艦をも貫穿破壞し得るの力を具ふるが故に彼我の本艦隊が一たび衝突するときは双方共に非常の損害を免かれざる可しとは其道の人の常に唱ふる所なりと云ふ左れば黃海の戰爭に於て若しも我艦隊に二三の主戰艦を有すると同時に彼の軍艦にも鋭利なる兵器を備へ略ぼ對等の勢力を以て双方相切迫して激戰を演したらば戰の勝敗は姑く擱き我損害は決して當時の實際に止まらざりしみとならん此時に當り萬一、敵に豫備艦隊の用ゆ可きものありて更らに代て海上に臨まれたらんには事の成行想像に難からざる其反對に若し我國にも豫備艦の設わらんには北洋艦隊の全滅は黃海の戰後、殆んど五個月の永きを待つを要せざりしなる可し即ち海戰の勝敗は艦數の多少に關係するみと大なるの事實は決して疑ふ可らざる所なれば我輩は平常役務に從事する常備艦の外に更らに幾多の豫備艦を備ふるの必要を認るものにして一隻にても二隻にても或る可く艦數の多きを望む所以なり或は海軍擴張圖より異議なしと雖も列國の勢力を程度として擴張するときは彼等もまた〳〵擴張して其程度を高む可し擴張又擴張遂に底止する所なきに至る可しなど掛念するものもある可し我擴張の程度は勿論、彼の列國勢力の情況に應じて伸縮せざる可らず之を本邦自國自衛の爲めにして苟めにも他に對して野心を懷くものに非ざれば一噸たりとも彼の本國の海軍と對抗と爲ふの必要を見ず只その東洋艦隊の勢力と今後增加す可き程度とを觀察し以て我海軍豫算の本旨を保つが爲めに擴張に汲々たるは敢て無理の事にあらざるなり、

○秋の上野（其一）

白馬會展覽場

新派は後れて出でたりと雖も、既に數十年を經過したり、その間前人の遺蹟に依らず、力めて一新畫法を出ださんとしたるの結果は、篤く勅を奉して、皆く空氣を寫し、又能く日光を描くを得たり、是れ新派に屬する人の、或はアンプレッショニストの名を稱ひて、自らプレヤリストと稱するものある所以なり、

新派は自得の畫法に依りて、もろ〳〵の新しき製作を爲しぬ、雨、霧、雪、夕等の畫材の如き、實人の獨立しては描き難きものを、巧に物したるが如きも其一なり即ち其本國の海軍は自から備ふるの必要ありて備ふるものなれば漫に東洋に向て威力を逞ふするを得ず或は一旦急要の場合には其派遣艦隊の外に更らに增派す可きは勿論なれども其增派にも自から限りありて本國の守備を空虛にして外に出づるみと能はざるは申す迄もなく實際彼等が極東の海上まで臨時に艦隊を派遣するには種々の困難ある中にも例へば石炭供給の一事に就ても其不便は容易ならざる可し既に前年佛清戰爭の時にクールベー提督が專ら南方の攻擊を勉めて遂に北方に進まざりしは石炭の供給意の如くならざりし爲めなりとの說あり又事、少しく古けれども英佛の聯合軍が北支那攻擊の際にも一時石炭に不足して日本より買入れたるみとあり云ふ左れば彼の列國が東洋に逞ふし得べき海軍力には自から程度あるみと明白なれば我輩は終始その程度に注目して之に對して常に優勢の地位を占むるを期するのみ

鳴野の小春　大阪藝兵場前